

# 総合学習（英語活動領域）

古川雄次	宮島浩典
居村明子	笹山明夫
乗富章子	丹後京子
山岸郁生	齊官重治
前田倍成	水野郁代

## はじめに

本校では、昨年度2人のEAA<sup>※1</sup>が配属され、3年生以上で総合の時間の中から年間20時間を英語活動の時間にあてていた。一つのテーマを2時間で扱い、第1時をHRT<sup>※2</sup>とEAAとのTTで、第2時はHRT一人で英語活動を行ってきた。第1時では、そのテーマの中心となる言葉やその言葉を用いた表現の仕方を知り、第2時では、前時の活動をふり返るなどして、一層の充実を図った。HRT一人での時間は、子どもが安心して活動できるという利点もあったが、子どもの意欲や関心を持続させることの難しさも感じた。

そして、ALT<sup>※3</sup>の特性を生かした活動を計画すること、子どもが生の英語表現にふれる時間をより多く確保すること、カリキュラムの検証、指導方法のより一層の充実が課題として残った。今年度は4人のALTとの指導体制をとることにした。このため年間20時間（1、2年生は10時間）の英語活動すべてにおいて、HRTとALTによるTTでの授業が可能になった。

※1 English Activity Assistant

※2 Homeroom Teacher

※3 Assistant Language Teacher

（今年度EAAからALTに名称を変更）

## 1 領域の目標

話すこと・聞くことを中心とした活動を通して 英語によるコミュニケーション能力の向上を図る

ここでいうコミュニケーション能力とは、自分の思いを自分なりの英語表現で伝えたり、相手の思いを受け取ったりする能力および態度である。つまり文法的に英語を学ぶのではなく、「聞く・話す」を中心とした活動を構成するのである。子どもの英語に対する興味・関心を引き出すために、楽しく英語にかかわることができる活動を工夫していくことが大切になる。

ALTの話していることが少しでも理解できたり、自分の話した英語がALTに伝わった喜びを経験することで、英語への自信を深めていくことができる。喜びや自信という思いと活動の積み重ねが、コミュニケーション能力の向上を促すものと考えられる。

## 2 活動（単元）を構成するにあたって「学び」について

子どもにとって英語活動は、魅力的で楽しい活動でありたい。ALTと直接ふれあい、ふんだんにnative speakerの英語を聞いたり話したりする中で、無理なく楽しく、体験的に学んでいく。本校の英語活動は、「覚えなければならない」「理解しなければならない」という活動ではなく、何度か繰り返し使ったり聞いたりする中で、自然に英語に慣れ親しみ、身につけていくものでありたい。それらの活動が、子どもにとって楽しい活動になれば、英語に対する好奇心や探求心をも育むことになる。それが、コミュニケーション能力の向上につながるものと期待したい。

従って、英語活動の学びとは、「無理なく楽しく体験的に英語を学ぶこと」であると考えている。

このような活動を通して、全体論で示された力のうちの「発働する力」、「ネットワークする力」、「見つめる力」の3つが培われていくであろう。

## 「個」の確立した姿について

私たちは、英語活動における「個」の確立した姿を、「コミュニケーションの手段としての英語を使って、外国人と積極的にかかわろうとする姿」と考えている。小学校段階では、ALTと直接かかわり合う英語活動の積み重ねが、英語によるコミュニケーション能力の向上を図ることとなるだろう。

将来的には世界の人々とコミュニケーションができ、視野が広がったりいろいろな視点から物事を判断できるようになると期待している。

### (3)「個」の確立した姿に迫るために

#### ① 一人一人のコミュニケーション活動への自発的な働きかけを促す

子どもの中には英語でコミュニケーションすることへの不安から、英語活動に対して抵抗を感じる子もいるだろう。そのような不安を取り除き、興味・関心を引き出すために楽しい活動づくりを心がけたい。具体的には、思わず口ずさみたくなるような歌をリズムに乗って歌う、ALTによる表情豊かな絵本の読み聞かせで英語の世界にたっぷりと浸る、夢中になってゲームに参加するなど、体全体で英語を学んでいくようにしたい。このように、子どもが生き生きと取り組める活動を取り入れることが、子どもの「発働する力」を育むと考える。

HRTの役割は、ALTとの会話のモデルになったり、子どもと同じ立場で一緒に活動を楽しんだりすることである。時には子どもがALTと安心して活動できるように、日本語で説明を加えることも必要であろう。また、子どもの反応に臨機応変に対応することも子どもの実態をよく知っているHRTの大きな役割である。

#### ② ALTと子どものふれあいを大切にす

昨年度、子どもは年間を通して一人のALTとかわって来たが、今年度は全ての学年で4人のALTと学ぶ機会をもっている。それは、より多くの外国人とのふれあいを大切にしたいと考えたからである。

そこで、ALTの個性を最大限に生かせるような場を設定したい。マンツーマンで挨拶をする、握手をする、ゲームの中で共に喜び合うなどである。このように、子どもが自然にしかも積極的にALTとふれあうことのできる場や状況をつくっていくことで、子どもが英語や外国の人々に親しみをもつようになることを願っている。

#### ③ 聞いたり話したりする場を

##### より多く保障する

コミュニケーション能力の向上のためには、英語を聞いたり話したりする機会をを少しでも多く保障していきたいと考えている。

今年度は、毎時間ALTと活動ができるように

なった。また、その時間のテーマに関する言葉や英語表現だけでなく、活動への指示や心情などもnative speakerの英語で表現されることが多い。子どもはたくさんの英語表現を聞き、ALTの後について何度も繰り返し発音している。HRTやALTは、クラス全員で、グループで、時には一人でという形態も工夫しながら英語を話したり聞いたりする場をできるだけ多く設けている。

子どもが活動を通して新しい表現に出会ったときに、以前に扱った英語表現と時には結びつけることができる。それを「ネットワークする力」と考えている。

#### ④ 自己評価活動で子ども自身の

##### よさの自覚を促す

活動の最後にその時間をふり返ることを、英語活動における主な自己評価活動としたい。その時間に分かったことや身についたこと等の内容面と、その時の心境や気持ちの変化等の情意面の両面をふり返るようにする。その方法は、感想を口頭や挙手で表したり、ふりかえりカードに記述するなどである。

カードを作成するときには、内容や項目などについてALTとあらかじめ話し合っておく。カードによる自己評価活動を行う際には、子どもが記述する時間を保障する。

このカードを子ども自身がファイルしていくことが、活動内容や楽しさ・喜びなどの前向きな思い、すなわち自分自身のよさを蓄積していくことになる。また、それらを学期の終わりなどに読み返す。これらのふりかえりを通して「見つめる力」を培っていきたい。

私たちはこれまでもHRTとALTのTTという指導形態をとってきた。先にも述べたとおり、今年度はすべての英語活動の時間においてTTによる指導が可能となった。TTがさらに円滑に行われるようにするため、事前に打ち合わせの時間を設け、活動のねらいや1時間の流れ、内容、時間配分、HRTとALTそれぞれの役割などを十分に話し合っておきたい。

HRT、ALTの特性を最大限に生かせるようなTTのあり方を、今後も模索していきたいと考えている。

### 3 実践例 —5年—

(1) テーマ “Are you hungry?”

(2) ねらい ・身体や心の様子を表現する活動を、ゲームなどを通して楽しむことができる。  
・ “Are you ○○○?” “Yes, I am.” “No, I’m not.” の表現を使うことができる。

(3) 指導にあたって

テーマについて

子どもは、これまでに名詞や動詞を使った “What’s your favorite foods ?” や “What animals do you like ?”、“Can you swim ?” のような表現を学習してきた。その中で、自分の趣味やできることを相手に伝えることで、自分を表現することを学んできた。今回は、日常生活の会話の中でも使われることが多い、形容詞を使って身体や心の様子を表現し合うことが主な活動である。形容詞を使った表現を利用できようになり、ゲームなどを通して表現することそのものを楽しむことがねらいである。今回は、happy、tall、old などの表現が加わることで、より相手の気持ちや気分が分かったり、自分の身体の調子や様子、気持ちなどを伝えることができたりして、より自分を表現することができるようになるであろう。

「個」の確立した姿に迫るために

① 一人一人のコミュニケーション活動への自発的な働きかけを促す

形容詞を使った表現を知るために繰り返して練習するだけでなく、ALTが滑稽な顔の表情や動作、ユニークな絵を使いながら楽しんで練習できるようにする。また、ゲーム的な要素のある練習も加えながらより楽しい雰囲気になるようにする。そうすることで、楽しみながら英語で表現したり、進んで英語を使ってコミュニケーションを図ったりするようになると思う。

② ALT (Andre Charette) と子どものふれあいを大切にする

より多くのALTとのふれあいを数多く体験するため、マン・ツー・マンの会話をする場面を多く取り入れる。全体で練習することも必要であるが、最初の挨拶は勿論のこと、授業の途中にもマン・ツー・マンの会話をする場を設定してALTとできるだけ多くふれあうことができるようにする。また、ALTに対する質問を取り入れたりすることで、共に喜び合うなど子どもが自然に、しかも積極的にALTとふれあうことのできる場をつくる。これらのことから、英語や外国の人々とより親しくなっていけると考える。

③ 聞いたり話したりする場をより多く保障する

コミュニケーション能力の向上のためには、英語を聞いたり話したりする場をより多く保障していくことが大切である。そこで、できるだけその時間に取り上げることばを多くする。そのことで、一人一人が英語を話したり聞いたりする機会を多くする。また、子ども同士が練習する時間をとることや、ゲームを利用してお互いに尋ね合うことでも英語にふれる機会をできるだけ多くする。

④ 自己評価活動で子ども自身のよさの自覚を促す

毎時間にふり返りカードを書いている。本時でも、その時間に学習したことや、できるようになったことだけでなく、英語活動そのものに対する楽しさや喜びなどの心情的な面も記録していく。記述については子どもたちに負担にならないように、視点をはっきりとさせて書かせていく。さらに、学期末や学年末にそれまでの活動をふり返る場を設けて自分ができるようになったこと、まだあまりできないことや、英語活動を通して自分が変化していったことも確認することができると思う。

(4) 本時の活動

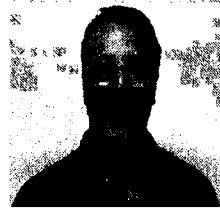
英語活動  
ふりかえりカード2  
5年組番

今日の先生は  
できるようになったことは  
楽しくできましたか

先生と友だちの目を見て言えましたか  
先生の話したことが伝わりましたか  
友だちの話したことが伝わりましたか



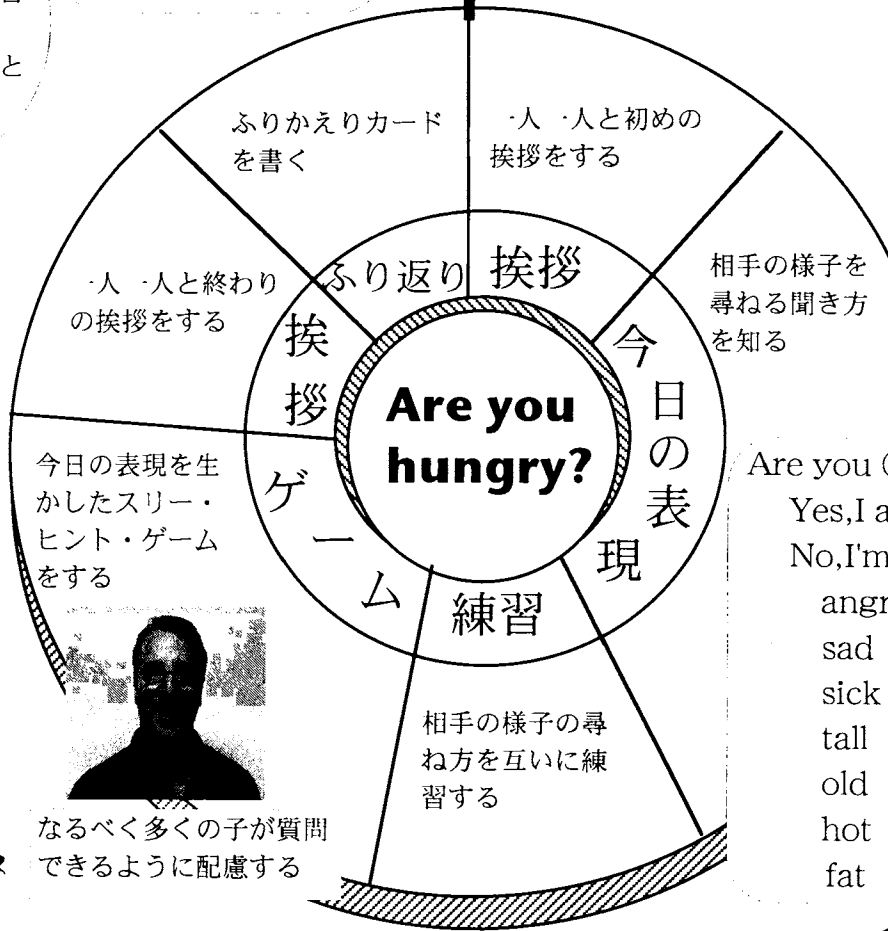
ふりかえり  
カードを書  
く時間を  
しっかりと  
とる



START

一人一人と目を見ながら、しっかりと挨拶をする

Good morning.  
Good morning.  
How are you?  
I'm fine, thank you.  
And you?  
I'm fine, thank you.



一人一人が必ず練習できるようにする  
絵を使ってわかりやすく説明する

Are you ○○○?  
Yes, I am.  
No, I'm not.

angry happy  
sad sleepy  
sick good  
tall short  
old young  
hot cold  
fat thin etc.



“ Three Hint Game ”

ALT : Who am I?  
Children : Are you short?  
ALT : Yes I am.  
Children : Are you fat?  
ALT : No I'm not.  
Children : Are you speedy?  
ALT : Yes I am .  
Children : Are you a mouse?  
ALT : Yes. I am .  
( No. I'm not. )



a turtle  
a rabbit  
a monkey  
a mouse  
a snake  
an elephant



自信のない子や分からない子に発音や意味などを言葉や動作などでアドバイスをする

「スリーヒントゲーム」

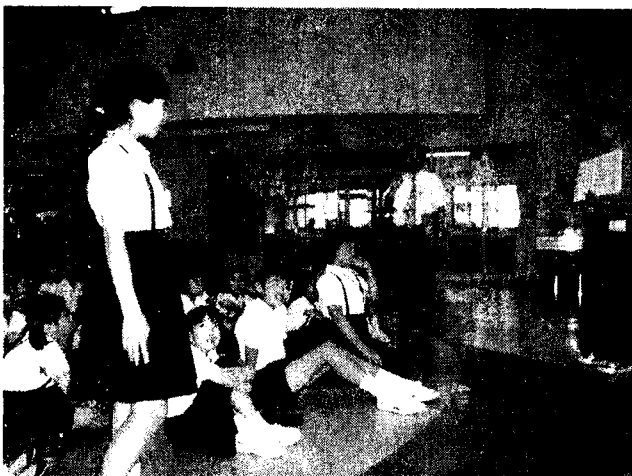
動物のカードをもったALTが「わたしは誰でしょう？」と尋ねる  
子どもが質問を3回する  
そのあと、動物の名前を当てる

## (5) 本テーマにおける授業の実際と考察

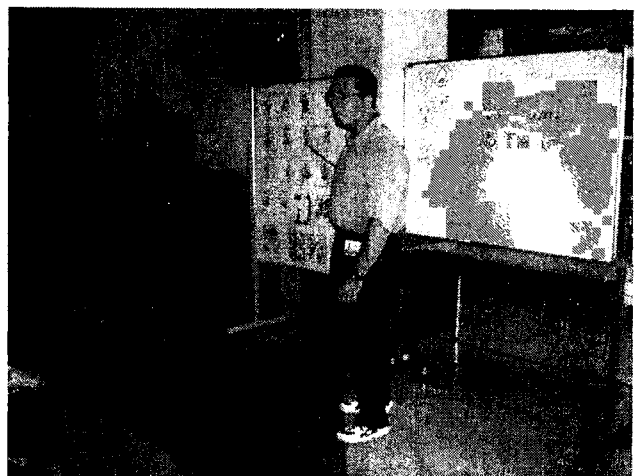
今年度は、英語活動領域においても「個」の確立した姿に迫るために4つの手だてを考え研究を進めてきた。また、昨年度と違い全ての時間をALTとのTTで授業を進めることができるようになった。4つの手だての実際やその有効性の有無、テーマ設定、自己評価のあり方やTTとの授業の進め方などについて考察を進めてみたい。

### ① 一人一人のコミュニケーション活動への自発的な働きかけを促す

まず、形容詞を使った表現を知るために絵が入った説明の紙を用意したりALTが直接ホワイトボードに絵を描いたりして、話している言葉の意味が楽しく理解できるようにした。また、初めて出会う単語をたくさん取り上げたが、子どもは負担に感じることもなく活動を楽しんでいた。これは、ALTが形容詞が表している様子を表情豊かに表現したり、楽しい絵を使って説明したりしたためである。



スリー・ヒント・ゲームで次々と質問する様子



説明の紙を使ってにこやかに話すALT

また、後半のゲームでは、三つのヒントで動物をいい当てるスリー・ヒント・ゲームをした。今までに学習してきた単語では、うまく質問することができず、やや難しいゲームとなったが、子どもは積極的に次々と質問し、答えを探っていた。そこには、ALTが表情豊かに話しかけていたので、子どもが緊張感をもつことなく活動に取り組めた。

これらのことから、本時で考えていた手だてが効果的に働いて、進んで英語を使ったコミュニケーションを図っていたといえるであろう。このように、ALTが表情豊かに話しかけたり、楽しい絵を使ったりするような効果的な働きかけをすることで、4つの培いたい力の内の一つである「発働する力」が子どもに身についていくと考える。

また、今回は、“Are you ○○○?” “Yes, I am.” “No, I’m not.” の表現を使って



練習の際に子どもに質問するALT



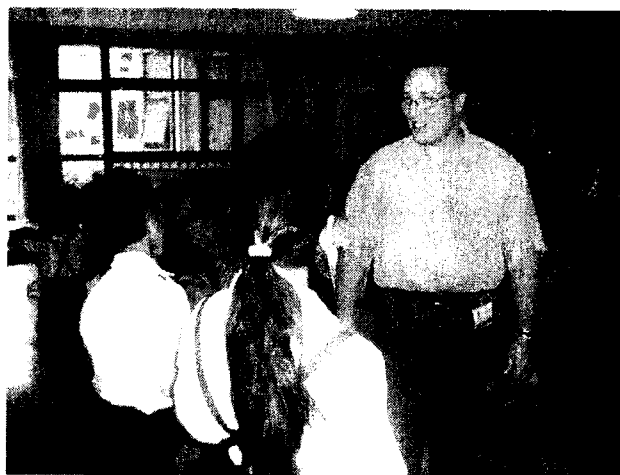
子どもが話しているのを聞くALT

活動した。この表現は簡単で、気軽にコミュニケーションを楽しめるので大変良かった。子どもは活動が終わってからも、周りにいる先生やALTに質問をしていたし、休み時間にも使っていた。ということは、発達段階などから見て子どもに大変に適していたといえる。

しかし、活動の形態については、コミュニケーション能力を培うということを考えると、もっと活動の内容を考える必要があった。ゲームの時に、一部の子どもしか発言することができなかったからである。「表現－練習－ゲーム」という流れは、何年間かの実践の中で定着しつつある。しかし、今回のように子どもが自発的に話そうという意欲を持ったときにはその形態では無理があった。“Are you ○○○?” の表現を使って聞いてみたいという意識が、子どもに大変強かったので、いつもゲームでなく、子どもの興味・関心などに合わせ、別のパターンでも良かったような気がした。

## ② ALTと子どものふれあいを大切にする

今年度は、4人のALTと英語活動を行っている。本時のALTとは、これが2回目の英語活動である。前回の活動では一人一人と挨拶や握手をしながら活動に入っていた。その際、楽しい挨拶や自己紹介などがあり、子どもは強い印象を受けていた。今回は内容が多めだったので、一人一人との挨拶は時間の関係でできなかったが、前回の強い印象から子どもは、意欲を持って活動に取り組んでいた。



活動が終わった後も子どもがALTに質問しに行く様子

子ども同士で練習する場面では、ALTがどんどん子どもたちの中へ入って行って、質問の仕方が分からない子や、発音が分からない子に積極的にかかわっていた。A児の本時をふり返っての感想にあるような、楽しそうにALTと話す子どもを見ることができた。

また、スリー・ヒント・ゲームでは、ALTに対して質問するようにしたことで、子どもたちの意欲も高まり、“Are you young?” “Are you hot?” “Are you angry?” などのように次々と質問がでて、ALTともより親しみが増したようであった。授業後の様子でも、B児の感想にあるように自分からALTに習った表現の仕方質問しに行く子ども多く見られ、ALTと直接かかわる場面を多く取り入れたことが、有効に働いていたといえるであろう。自己評価カード

A児：あなたは～ですかと英語で聞き Yes,I am.とNo,I'm not.と言えるようになりました たくさんの言葉も覚えました 先生に質問した時先生達の表現がおもしろくてわかってしまいました 楽しく英語がもっと好きになりました

B児：今は△□×○ですか Are you ?を聞くことができました 最後に乗富先生に聞きました ニコニコでこたえてくれてうれしかったです すごい楽しかったよ いろんな人に聞けたり答えたりして楽しかったです

本時をふり返っての感想1

の中にも、活動が楽しかったことの理由にALTのことを挙げる子どもも多いのもその表れである。

### ③ 聞いたり話したりする場をより多く保障する

本時では、取り上げる形容詞を14～15ほどとを考えていた。実際の授業では、30近くの形容詞が取り上げられた。子どもは、数の多さには全くと言っていいほど負担にならなかったようである。その理由の一つには、ALTから「全部は、覚えなくてもいいよ」という言葉かけがあったからである。そこには「分からなくても大丈夫。」「分からなくなったら教えてもらえる」という安心感が大きく働いていたからである。自己評価カードを見ても、ことばの多さに対することは全くなく、いろいろな言い方を学ぶことができ良かったという内容のものが多かった。

また、練習する場面では、子ども同士で質問したり、答えたりし合うようにした。二人のペアでし終わった子たちは、どんどん周りの子ども楽しそうに質問したり、答えたりし合っていた。

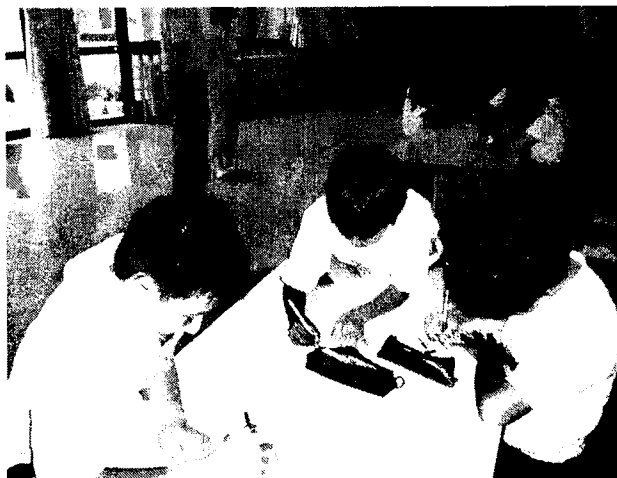
しかし、ゲームの場面では、質問する子の数が限られてしまい、多くの子が参加し、話したり聞いたりする機会が少なくなってしまった。このことは、これからの活動の内容を考えていく上で考慮しなければならない点である。

このように、子ども同士、子どもとALTの間で聞いたり話したりする場を多くもつことが、英語活動で考える「ネットワークする力」を培う上でとても重要であるし、子どもにも確実に「ネットワークする力」が身についていくと考える。

### ④ 自己評価活動で子ども自身のよさの自覚を促す

本時でも、書く時間を保障して、ふり返りを書いた。前回の活動の時より、「目を見て話せたか」「話したことが伝わったか」の項目の評価でしっかりとできたと評価する子が多くなっていた。それは、ALTに慣れたこともあるだろうが、それよりも今年度の英語活動が、子どもに合っていたためである。その理由には、C児の感想のように今年になってできるようになったこともあるであろうが、D児、E児の感想のようにALTと活動する時間が増えたことや、ALTが4人に増えたことが挙げられる。また、「できるようになったこと」には、日本語で活動の内容を書いている子もいるが、それだけでなくALTが書いた英文を写す子も四分の三以上いる。

学期の終わりにも、学期を通してどうだったかと言うことをふり返らせた。その中では、昨年



活動が終わり ふり返りを書く子どもの様子

- C児：私や家族のたん生日を言えるようになったり、人に聞けたりして楽しかった。
- D児：きょ年より言えることが、かなりふえて、だんだん英語が楽しくなってきた。
- E児：去年は2人しかいなかったけど、今年は多くなっているの、いろいろなおしえかたがあつておぼえやすくなりました。

### 1学期をふり返っての感想

度と比べて楽しかったという感想が多かった。今年度はALTの個性を生かし、ALTを中心に活動を進めたからである。このように1時間でも自分の変化は見るができるが、やはり学期などの長い期間で見ていく方がはっきりと見えてくる。ただ、この自己評価を今後の英語活動にどのように生かしていくのかはまだはっきりとしていない。

しかし、このような自己評価活動を続けていくことで、英語活動での「見つめる力」が身についていくと考える。



参観している先生に質問している様子



子ども同士で質問し合っている様子

F児：質問したときの先生の表情が楽しかった

G児：先生に聞くときにアーユーファット？と聞いたのが楽しかった

H児：先生にしつもんするところがおもしろかった

I児：先生のわかりやすい英語の覚え方があって楽しかった 他の先生の答え方もすごくおもしろかった

### 本時をふり返っての感想2



HRTが分からないことを説明している様子

本年度は、活動をALTとHRTが相談しながら計画することができる。また、昨年度はHRTだけの時間もあったが、今年度は全ての活動の時間にALTとのTTで活動することができる。このことを生かし、よりよい英語活動がどうあるべきなのかをこれからも追求していく必要がある。その一つは、よりよい学習環境をどう整えていくかということである。その中には今年度取り組んでいるALTのこともある。また、TTをどのようにくんでいくかということも含まれるであろう。その他のことについてもこれから取り組んでいきたいと考えている。

### ⑤ よりよいTTのあり方をめざして

1学期は、新しくALTが増えたということもあり、ALTが中心となって行う活動が多かった。HRTの役割は、ALTとの会話練習の相手をしたり、子どもの指名をしたりすることが多かった。また、ALTの説明が分からないときに日本語で説明したりすることであった。本時でも、HRTの役割は子どもの指名と会話練習の相手をしたり、個別の練習の際に子どもの様子を見て、言葉を教えたりすることであった。

HRTの役割を考えると、まだまだ果たす役割がある。例えば、授業の内容を考えていくときに積極的にALTと話し合い、決めていくことができる。また、授業の流れを考えると、どうすればうまくALTと効果的にTTが組めるのかということも考えていかなければならない。つまり、活動の中でHRTが果たすべき役割とALTが果たす役割を、しっかりと事前に打ち合わせしておかなければならないということである。そうすることで、英語活動でより子どものコミュニケーション能力が育つことになる。